# 東よか干潟環境保全及びワイズユース計画（仮称）

# の策定に係るアンケート結果

| 文字色 | アンケート対象者 | 回答数 |
|---|---|---|
| 黒字 | 東よか干潟環境保全及びワイズユース検討協議会会員 | 10 人 |
| 赤字 | 東よか干潟ボランティアガイド | 12 人 |
| 青地 | 東与賀中学校 | 249 人 |

※東与賀小学校は現在実施中

## 1　計画の名称について

・東よか未来
・ラムサール登録東よか干潟ワイズユース計画
・東よか干潟環境保全及びワイズユース計画
・有明干潟環境資源創生計画
・大自然の宝を次の世代に残したい「東よか干潟」
・東よか干潟環境保全・ワイズユース基本計画
・有明海：東よか干潟環境保全・活用プラン
・Ｒamsarise Plan（ラムサール条約の理念を実現する計画）

## 2　東よか干潟を一言で表現すると

・おだやかな主人（日の出から日没まで有明海はおだやか）
・シギチの郷
・朝日や夕日が絶景の干潟ひがしよか
・壮大な泥干潟
・日本一のラムサール条約湿地
・絶滅危惧種の宝庫
・日本一の渡り鳥生息地
・渡り鳥に選ばれた日本一の干潟
・次の世代に残したい大自然の宝「東よか干潟」
・東よか干潟は生き物たちのパラダイス
・東よか干潟は生き物たちのテーマパーク
・国内最大級の泥干潟

・泥干潟面積日本一
・多種の絶滅危惧種の生態が目の前で観える場所
・自然と人との営みが一致した干潟
・人にとっても、野鳥にとっても、食べ物が日本一美味しい干潟
・水鳥の楽園
・見渡す限り何も無い！100％天然！
・生物多様性を体感（できる）
・大自然の面白さが感じられる
・海と空の生き物が共生している
・海と空の生き物の共生
・栄養いっぱい生き物いっぱい
・干潟の宝
・たくさんの命育む日本一の干潟
・縄文人の豊かな食生活も支えた豊穣の干潟
・生き物の息吹が聴こえる東よか干潟（さあ、目を閉じて耳を澄ましてごらん。海座禅）
・日本一の宝の海
・自然が織りなす大パノラマ
・東よか干潟は世界遺産
・四季で変化する東よか干潟の風景
・時間で変化する東よか干潟の風景
・湿地の生き物の宝庫
・湿地の恵みの宝庫
・海辺の生き物
・海辺の生き物の宝庫
・生き物たちが集う豊かな海

## ３　東よか干潟のＰＲポイントについて

・シギチ渡去来　日本一干潟
・有明海の干満差日本一
・シギ・チドリ類の飛来数日本一
・海の紅葉シチメンソウの国内最大の群生地
・広大な干潟の風景
・ムツゴロウ、シオマネキ、ワラスボ等のいる泥干潟
・広大な干潟の風景
・360 度の自然展望地（日没時も含め）

・東よか干潟は野鳥たちには日本一の楽園（パラダイス）
・東よか干潟は夕日が日本一美しい景勝地
・東よか干潟は四季折々の自然の美しさを観ることができるパワースポット
・古代のロマンが息づく東よか干潟
・野鳥の宝庫
・広大な泥干潟
・シチメンソウの群生地
・希種な生物の生息地
・干潟の広大さ、グレーのモノトーンにブルースカイのコントラストとそこに飛来するユニークな渡り鳥の多種多様さ
・ムツゴロウとシオマネキのバトルを渡り鳥が観戦する泥干潟
・空港に近く、大型バスや車で乗り付けられ、間近に渡り鳥が観察できるアクセス良好な泥干潟
・大自然の広がりと奥行きを感じる場所
・減農薬栽培に取り組む東よか干潟
・渡り鳥の休憩所
・ツクシガモ、ズグロカモメの越冬する数も日本最多。全国の 1/3 程度が越冬します。
・干潮時日本の干潟の 4 割になる
・潮干狩りは船に乗って
・泥こそ有明海の栄養源
・日本一の干満差
・日本一の広さと干満差を誇る干潟の景観
・広大な干拓地と歴史
・生物多様性（生態系や種の多様性）を育む干潟
・伝統漁法
・有明海の宝　東よか干潟
・シギ・チドリ類の飛来数日本一
・海の紅葉シチメンソウの国内最大の群生地
・渡り鳥たちの三ツ星レストラン
・絶滅危惧種の休憩地
・間近に見える干潟の生物
・絶滅危惧種の水鳥と渡り鳥の宝庫
・海の紅葉シチメンソウの群生地
・国内有数の干潟の広さと日本最大の干満差
・広大な干潟の風景と湿地が織りなす生き物の宝庫
・広大な干潟と渡り鳥

・生物多様性に富んだ湿地
・水平線が望める
・砂の海岸では見られない珍生物
・満潮時の鳥の数に圧倒される
・とても広い干潟を見ることができること
・ムツゴロウやシオマネキなどたくさんの生き物がいること
・野鳥（シギ・チドリ類）の飛来数が日本一であること
・シチメンソウの群生が日本一であること
・干潮と満潮の差が日本で一番大きいこと
・シチメンソウがきれいなところ
・のりが美味しい
・毎年シチメンソウまつりがあること
・シチメンソウの鮮やかな色合いがいい
・日本一がたくさんあるのですごい
・シチメンソウまつりの夜の灯篭がきれい
・海苔がいっぱいできる

## 4　東よか干潟の環境保全について

**（1）貴会員が環境保全のために過去に取り組まれたこと、現在取り組まれていること、今後計画されていることがあれば記載してください。**

**【過去】**

・干潟よか公園のつつじの植栽
・コスモスの種まき
・トヨタ、コスモ石油、佐賀県水産課、ライオンズクラブ、市等の主催の清掃活動参加
・シチメンソウの保全活動（種取り、種まき、海岸漂着物除去作業等の環境美化活動）
・東よか干潟での野鳥の定点観測・調査
・ラムサール条約登録に向けた野鳥写真展、スライド放映会を行い啓蒙活動を実施
・森・川・海は繋がっていることから、有明海の環境保全のために、山の植林・枝打ち作業等へ参加。他にも河川清掃・海岸清掃などの活動にも参加
・平成 17 年～26 年　冊子「有明海」を毎年発刊
・平成 20 年～21 年　有明海ぐるりん検定試験を主催
・平成 23 年 11 月　佐賀市主催「干潟サミット」を後援
・平成 25 年 9 月　「東よか干潟シンポジウム」（ラムサール登録っ何？）－水鳥が干潟の豊かさを証明するーを主催
・平成 26 年 7 月　佐賀市主催「東よか干潟シンポジウム」－東よか干潟の価値はこどもたちで引き継ぐーを後援
・平成 28 年 11 月　有明海干潟サミット「ラムサール条約湿地登録から見える干潟の魅力」干潟を身近にするを主催
・二枚貝を使ったレシピの開発（サルボウトマトソース）
・サルボウ貝を使った試食会を毎年ガタリンピックにて開催
・清掃活動（生徒、職員、PTA）
・波と流れの共存場における干潟域底泥の巻き上げ機構に関する研究
・浅海干潟域底泥における窒素循環に関する研究
・有明海奥部における貧酸素水塊の発生機構に関する研究

**【現在】**

・年 2～3 回のクリーン作戦への参加
・トヨタ、コスモ石油、佐賀県水産課、ライオンズクラブ、市等の主催の清掃活動参加
・シチメンソウの保全活動（種取り、種まき、海岸漂着物除去作業等の環境美化活動）
・河川清掃・海岸清掃（有明海クリーンアップ作戦）等に会員に呼びかけできるだけ多くの人に参加を促し環境保全のために努めている
・ＮＰＯ法人有明海ぐるりんネットの環境保全活動への取組
・清掃活動（生徒、職員、PTA）

・東よか干潟におけるマクロベントスの時空間的な分布特性の解明
・カニ類の生息場適正指標（HSI）モデルの構築
・カニ類の Bioturbation が干潟の物質循環に及ぼす影響評価

【計画】
・一年中花が咲き来訪者を楽しませたい
・トヨタ、コスモ石油、佐賀県水産課、ライオンズクラブ、市等の主催の清掃活動参加
・シチメンソウの保全のために、まちづくり協議会や子どもクラブ等と協働の活動を進めたい
・山の植林、海岸清掃（有明海クリーンアップ作戦）等を広く呼びかけて実施したい
・アジア湿地シンポジウム 2017 を支援し、有明海を世界に発信
・有明海全体のラムサール条約湿地登録をとおして、野鳥の目線から有明海を伝え「汚い海、濁った海、泥の海」のイメージを変える取組を進める。
・清掃活動（生徒、職員、PTA）
・潟土の堆積速度の計測
・潟土の堆積など干潟環境の中長期変化に伴なう生態系変遷の将来予測

**（２）環境保全を進めていく上での課題は何と考えられますか。**
・過度の観光地化
・東よか干潟は湾奥なので漂着木が多い
・地元住民の清掃活動参加者が少ない
・海岸漂着物の除去
・葦等の除去
・シチメンソウヤードよりも海水面（干潟）が高くなっている
・地元の協力と行政の理解
・東よか干潟をもっと身近に感じてもらうこと
・環境保全の取組は高齢者が多いため、いかに若い世代の人達の関心を持ってもらえるか。押し付けではなく、好奇心を刺激するような仕掛けを考える。
・漂着、漂流ゴミの除去、処分
・気候変動による生物、植生環境変化
・長期的な干潟の成長（干陸化）への対応（従来の地先干拓の手法が使えない）
・長期的に多くの人に関心を持って訪れてもらい、学習してもらうこと（長期的な観光学習者の増加を図ること）
・生物相や干潟環境の現地調査データに基づく現況分析が必要。しかし、そのデータが不足している。

**（３）今後どのような取り組みが必要と思われますか。**

・山・里・海の連続した保全整備
・干潟の後背地への植林（森づくり）
・立ち入り規制区域を設けて保全を図る。
・定期的に国・県との合同でのクリーン作戦
・清掃活動参加者に対してシチメンソウまつりで利用できるクーポン又はポイント制等の導入
・清掃参加団体を把握しシチメンソウまつり等で表彰
・清掃活動等ボランティアの育成
・シチメンソウヤードの排水対応
・野鳥保護を目的とした探鳥の実施
・有明海のラムサール条約湿地の地域がお互い情報を共有し連携をとり、有明海は一つであるという共通の認識の下、環境保全の大切さについて、インターネット等の媒体を利用し広く情報を発信する必要がある。
・学校や地域の活動の中で自然環境教育を行っていく必要がある。
・長期的なベントス、土質、水質調査
・生活物（ペットボトルや空き缶など）を不法に容易に捨てないことが徹底されていないので、管理や監督の徹底が必要。
・国レベルでの保護
・生物相や干潟環境の現況分析後に、具体的に“何”を保全するのか、“どのように”保全するのか、が見えてくると思われる。
・中長期的な干潟の生物と環境のモニタリングを継続して行うことが必要であり、短期的、中長期的視点で捉えた保全を考えることが重要である。
・もっと大勢の人に知ってもらうよう PR 強化
・ゴミを捨てない
・他の湿地やラムサール登録地との交流
・長期的には水の透明度が増しているということなので水の再生→固有種の再生
・干潟の重要性を一人ひとりがあった人に話しをする。
・シンポジウムやパネル展を実施して、干潟の魅力と保全についての理解を深める。
・保全やワイズユースに関する産・学・官及び市民のネットワークづくり
・若い人への PR（参加・学習支援）
・シチメンソウの保全のため、ゴミの除去や種まきへの支援が必要
・ゴミの漂着が一番の問題。ゴミが海に流れ込む前に何とかならないか。
・毎月 1 回の干潟の掃除
・年数回有明海に面する 4 県でのゴミ拾い（4 県一斉にボランティアを募る）
・有明海に注ぐ山や川の環境保全（川のゴミ拾い、川辺や山での植林）

・有明海の生き物、景観などの保全の大切さを体感できるようなパンフの作成
・これまでの地域の活動を継続させること
・シチメンソウヤードの水はけの悪さを改善すること
・海岸の清掃（ごみ拾い）をする
・海や川にポイ捨てをしない
・干潟にいる生き物を大切にする
・干潟の大切さについて学習する
・海とつながっている山を大切にする
・東よか干潟の大切さを PR する
・たくさんの人に見てもらって知ってもらう
・干潟の性質などを知らせる
・いつもきれいにしておくことは大事だ
・地域の人達の力を借りてみんなで PR する
・東よか干潟の大切さやすごさを日本のほとんどの人が知らないと思うので、まず存在を知らせた方がよい
・干潟の大切さを一人ひとりが学習する
・動物達に被害が出ないような環境づくり

## ５　東よか干潟のワイズユース（賢明な利用）について

**（１）貴会員がワイズユースのために過去に取り組まれたこと、現在取り組まれていること、今後計画されていることがあれば記載してください。**

【過去】

・シチメンソウまつりでリズムダンス
・シチメンソウまつり
・夕暮れコンサートと十三夜
・干潟の凧揚げ大会
・干潟体験
・佐賀野鳥の会の会員の協力（写真提供、小中学生への学習指導、地元イベントへの参加）
・まちづくり協議会の中で特産品開発の検討をする中で、商品価値のないアスパラを使いピザを作り、アスパラをジュースにし飲んだところ非常に好評であった。過去に商品価値のないイチゴを使用し、イチゴワイン、イチゴ酢、また、漁協婦人部で海苔の佃煮等に取り組んだことがある。
・自然観察（野鳥、泥干潟の生物）の教材としての利活用（故郷を愛する心情を育てる、故郷を誇りに思う心情を育てる）

【現在】

・まちづくり協議会として夕暮れコンサート＆干潟の十五夜を観る会
・凧揚げ大会とぜんざい会
・シチメンソウまつりパネル展示
・シチメンソウまつり
・夕暮れコンサートと十三夜
・干潟の凧揚げ大会
・シチメンソウの里休憩所の運営（5 月～9 月（土日）、 9 月下旬～11 月下旬（土日、平日）
・夕暮れコンサートで弁当の食材としてアスパラを利用
・自然観察（野鳥、泥干潟の生物）の教材としての利活用（故郷を愛する心情を育てる、故郷を誇りに思う心情を育てる）
・JA さが東与賀支所では農薬を半分以下にする米づくりに取り組んでいる。

【計画】

・シチメンソウまつり
・夕暮れコンサートと十三夜
・干潟の凧揚げ大会
・ムツゴロウ、ワラスボ、赤貝等の有明海の魚介類をはじめ、地域の農産物、アスパラ、

イチゴ、ナスの食材を使った、新たなレシピを栄養士に考案していただき、イベント会場で試食会などを開き、ブランド化として作り上げていくこと。
・自然観察（野鳥、泥干潟の生物）の教材としての利活用（故郷を愛する心情を育てる、故郷を誇りに思う心情を育てる）

**（２）ワイズユースを進めていく上での課題は何と考えられますか。**

・ラムサール条約登録の目的の周知不足
・ワイズユースの方向性が曖昧
・活動の本拠地となるビジターセンターの設立
・予算
・スタッフ
・施設
・活動に参加する人が少ない
・シチメンソウの里休憩所の年間を通じた運営
・東よか干潟の価値や魅力についてもっと多くの方に知っていただくことが肝要。また、東よか干潟に実際に来て体感していただくことが何よりも大切。そのためには一年を通して楽しめる拠点となる施設の建設が急務
・基本となるインフラの整備（費用の確保）
・特別栽培米夢しずく（よかよか米）をアピールすることができず、別の米との価格差が 100 円ぐらいしかなく、生産者の努力が報われていない。

**（３）今後どのような取り組みが必要と思われますか。**

・周辺地の産物のブランド化
・隣接する物販施設
・行政の音頭とりによる統一感のあるロゴ
・コンセプトでの商品開発・売り込みが必須
・ビジターセンターを中心とした計画的な活動
・肥沃な地で収穫される農産物（米、イチゴ、たまねぎ等)、有明海ならではの海産物（のり、ムツゴロウ、ワラスボ等）等々のブランドづくり等への支援（6 次産業化（生産～加工～販売）への関係団体へ開発費、容器経費への助成、広報・宣伝への支援）
・地域ブランドサミット（交流会など）
・子ども達が気楽に遊べる干潟のスペースを作り、付近にはトイレ、シャワーを設ける。
・維持管理の資金源を永続的に獲得していくこと
・長期的に多くの人々の関心を引き付け続けられるか
・漂着ゴミの除去
・渡り鳥、シチメンソウの保護・育成に多くの人を巻き込むこと

・東よか干潟ラムサール登録のマークをつくり、さがほのか、光樹トマトなど、ブランド農産物にも活用する。
・東よか干潟米として販売先を見つけ、有利販売に取り組んでいきたい。
・シチメンソウまつり以外のイベントの実施（例：定期的な朝市の実施）
・アスパラ、トマトなどどうなっているか知らない人も多い
・海苔の工程見学
・点だけでなく面へ。近くのビニルハウスで栽培している作物の収穫やそれを食べるなど、1 年中楽しめるように。空港にも近く都市部の人を誘客できる。
・トビハゼとムツゴロウの違いが分かるように展示。触れられるものは触れさせる。
・観光協会等との連携
・干潟を含む佐賀だけの素材を活かした商品開発（モデルコースや商品など）
・佐賀の人に東よか干潟の魅力を体感してもらう市主催のバスツアーや見学会の実施（参加者が魅力について発信者になる）
・サイクルロードの拠点駅として東よか干潟を利用
・全国のラムサール条約湿地をめぐるスタンプラリー付きの紹介冊子の作成
・東よか干潟の写真コンテストを開催し、広大な干潟の風景や多種多様な生き物がいることを知らせる。動く写真館（バス、列車、トラック、タクシー内での展示など）
・ラムサールブランドの農産物や海産物のお土産があったらいい
・県外からの来訪者から“干潟に入れるのか”、“干潟で遊びたい”との要望が多くあるため、潟スキー体験や泥を触る体験ができれば楽しいのでは。
・施設を整備する場合、水洗い場、展示室、生物（ムツゴロウ、ワラスボ、トビハゼ、シオマネキなど）の水槽があれば。
・公共交通の整備（市営バスの干潟よか公園への連絡）
・九州北部の観光地としてもっとアピールが必要（動画、IT など）
・定期的に探鳥会を実施
・秋のシチメンソウだけでなく、夏の生物、冬の鳥など、年中楽しめることを PR

## ６　東よか干潟の交流・学習・普及啓発について

**（１）貴会員が交流・学習・普及啓発のために過去に取り組まれたこと、現在取り組まれていること、今後計画されていることがあれば記載してください。**

【過去】

・ラムサールクラブの子ども達と先進地での交流会に参加し学習
・まちづくり協議会員としてのラムサールクラブ員、干潟探検隊員のサポート
・あらゆる行事に佐賀野鳥の会の会員が参加してきた
・地域の子ども達を対象とした干潟の探検隊による自然環境学習、ラムサール条約登録地の島根・鳥取（宍道湖・中海）の子ども達との交流
・東よか干潟ボランティアガイドによる普及啓発を実施
・自然観察（野鳥、泥干潟の生物）
・東与賀小中学生の干潟の観察会の現地講師

【現在】

・東与賀小５年生の生物調査、野鳥観察会に参加
・東よか干潟ボランティアガイドを実施
・まちづくり協議会員としてのラムサールクラブ員のサポート
・シチメンソウの里休憩所でのガイド
・佐賀野鳥の会は定例探鳥会として東よか干潟は年に 1～2 回は実施している
・地域の子ども達を対象とした学習や交流活動
・自然観察（野鳥、泥干潟の生物）
・東与賀小中学生の干潟の観察会の現地講師

【計画】

・東よか干潟ボランティアガイドとして新しい知識を身に付け自身を持ってガイドしたい
・まちづくり協議会員としてのラムサールクラブ員のサポート
・地域の子ども達を対象とした交流、学習、普及啓発活動
・自然観察（野鳥、泥干潟の生物）
・小中学校ばかりでなく高校からも依頼があれば講義などを行う予定

**（２）交流・学習・普及啓発を進めていく上での課題は何と考えられますか。**

・交流・学習・啓発を進めるための場所がない
・鹿島の中村先生のような専門職の方が必要
・ラムサールクラブは親子で参加して大人の学習が大切と感じている
・地域を守るためには子どもの学習では効果は少なさ過ぎる。大人の参加が一番
・観察スペースの確保（年間を通した観察）

・地元の協力と行政の理解
・東よか干潟のある地元の学校として、子ども達に特色のある学習の取組が必要であり、そのための資金の確保や支援が課題
・小中学校での観察会などを実施するには移動費（バス代）等が大きな負担になるため、移動費の補助が必要

**（３）今後どのような取り組みが必要と思われますか。**

・交流・学習・啓発を進めるための箱物が必要
・佐賀市の全ての子ども達を対象とした環境教育、山→里→川→海の繋がり
・国境なく渡る鳥を通して知る国際感覚
・郷土の歴史・文化・自然を教える
・地元の人でもあまりラムサールの情報が広まっていないので広報に力を入れてほしい
・ビジターセンターの必要性と常駐の職員
・大人と子どもが参加する学習会・交流会の開催
・定例探鳥会の継続実施
・交流・学習会に高校生、大学生を積極的に取り込み実施した方が効果的
・長期的、継続的に情報発信（特に子ども達に）することが必要。そのためには、ここに行けば全てが分かるような拠点となる場所が必要
・地元東与賀小中学校だけではなく、他地区の児童・生徒への学習の場の提供、啓発
・環境教育として東よか干潟を活用することは非常に重要であるが、市内の小中学校まで広がっていない。北九州市では環境教育の一環として、ビオトープ施設への見学などが周辺の学校でプログラム化されている。できれば佐賀市でも干潟の環境教育をプログラム化してはどうか。
・天候に左右されない施設の設置
・ガタリンピックのように直接泥を肌で感じ楽しみながら学ぶ。思い出と共に
・子どもだけではなく大人もいっしょに学ぶ機会を持てるように
・地域のまちづくり協議会、自治会、民生委員会などに PR していろんな人の参加が必要
・次世代を担う若者に東よか干潟の魅力と保全の大切さを理解してもらう取組
・地元と教育機関（小学校～大学）と市が連携して環境教育の一環として東よか干潟を活用
・ビジターセンターを建ててほしい
・干潟よか公園に来園する子ども達に対して学習の場として使用することを呼びかける。
・市内小学校の 6 年間の中で、1 度は見学の義務化
・ゴミ拾い、山での植林など、幅広く活動することで様々な団体とつながりを持つ
・イベントの開催

## 7　自由意見

・シチメンソウの里休憩所の冬場の活用について
・小学校などの自然観察会に係る経費の全額公費負担（予算の確保）
・シチメンソウヤードの北側にはシチメンソウ以外の塩生植物の区域と植物名、写真等の表示
・上記をするために植物友の会等を本協議会に入会させる
・様々な行事を行う上ではスタッフと施設が必要でありビジターセンターの早期設置
・バルーンミュージアムで東よか干潟の鳥、シチメンソウ、海の生物を案内した写真・ビデオコーナーをつくる
・干潟よか公園内の施設、設備の改修（用具、パーゴラ等）
・シチメンソウまつりへの支援の継続
・ラムサール条約の理念の実現のためには、地域、協議会会員、行政の三位一体が必要
・東よか干潟（野鳥観察）カレンダー（シチメンソウ・イベント等も併せて掲載）：野鳥観察ができる日、シチメンソウの四季の変化、イベントの日
・東よか干潟の認知度を高めるための広報誌の発行
・東よか干潟登録記念イベント（東よか干潟の日を定め年 1 回は実施）
・東よか干潟周辺のマップ作成
・行幸記念碑や詩の紹介
・一年を通じてお客さんが来るような仕掛け
・地域の特産品に興味を持つよう、子ども達にのり抄の体験等の考案
・東よか干潟までのサイクリング・ウォーキングコースのマップ作成
・市民、行政、NPO、JA、漁業者、有明海漁協等の幅広い支援を得て、市民、農業、漁業との連携のもとにラムサール湿地の保全と活用を図ることが大事
・東よか干潟の来訪者を増加させ、賑わいをつくることが環境保全への関心を高め、整備費を獲得し、渡り鳥の湿地を守ることにつながる。
・＜集客案＞
  ・有明海沿岸道路の完成とその活用を見込んだ集客の仕掛けが必要
  ・世界中の観光客が訪れる泥干潟にできないか（例えばフランスのモンサンミシェルの日本版として、堤防から先に延ばした桟橋の先にシンボル的なもの（野鳥の住処となる簡易タワーなど）が作れないか）
  ・冬の観光客は、渡り鳥の生態を観ながら、堤防そばで牡蠣焼きが食べれないか。（東よか干潟で野鳥を観ながら佐賀の酒と牡蠣焼きを味わおう）（モンサンミシェルでは、ガタ土の海の橋のたもと付近で値段の高い生牡蠣販売、ワインと牡蠣の軽食屋が観光客相手に大繁盛している。）
  ・堤防に三瀬（山）から東与賀（海）までの農畜産物を並べた軽トラ市で人が呼び込めないか

・芦刈のムツゴロウ保護区のようにシオマネキ、ムツゴロウの生態が間近に見れる一区画と干潟遊びができる一区画ができないか。
・干潟の上を自在にゆっくり走行して、間近にムツゴロウ等を観察できる乗り物ができないか（雪上車の泥干潟版（潟上車））

・環境を維持するためにはある程度の費用は必要。国へもっと働きかけなければならない。
・利活用や学習の場となるような人的、施設的なインフラ整備は、絶対条件と考える。
・本協議会関連の活動を広く周知するホームページを早急に立ち上げる必要がある。東よか干潟の PR を効率的に行うためには、各団体が行っている活動が集約して見ることができるホームページを作成すると、環境、経済、教育など多角的な視点から東よか干潟の知名度が高くなると考えられる。そのためにはホームページの管理をどこで、どのようにするかを決める必要がある。
・野鳥の写真を撮影する人のマナーが悪い
・干潟をゆっくり眺められるベンチや腰掛があったらよい
・お土産や飲食できるスペースが必要
・「のだめカンタービレ」のロケ地だったことも表示してみては
・ガイダンスルームの拡充
・シチメンソウの里休憩所の有効活用
・来訪記念に観光スタンプを作ってほしい
・佐賀は素晴らしい観光資源を持っているのに活用できていないことはもったいない。
・東よか干潟には国内外から来訪者が大勢訪れており、注目を集めている。しかし、受け入れ体制が後手に廻っているのではないか。
・ムツゴロウの見える場所の確保（立ち入り禁止）
・ガイダンスルームを分かる日本語で
・古い望遠鏡の撤去
・ムツゴロウなど干潟の生き物を使ったおいしいメニューを考えてほしい
・干潟の生き物の料理を他県の人に食べてもらうことで干潟のことを知ってもらう
・たくさんの人に東よか干潟を知ってもらうためツアーを行ってほしい
・東よか干潟や生き物のことをもっと勉強したい
・東よか干潟の PR のためにもっとイベントを行ってほしい
・生き物や野鳥の数や名前を調べる
・東よか干潟限定の食べ物がほしい
・もっと干潟を守るための活動を増やす
・佐賀のことを知らない人に教えるため干潟のことを知りたい
・掲示館を作る
・美しい干潟を未来に残したいからポイ捨てをせず清掃を積極的にする
・いろんな干潟からたくさんの子ども達が来て交流会をしたい

・貝料理を考えてほしい
・ムツゴロウの味を知りたいので食べたい
・干潟を守るためには干潟や生き物のことを知っておかなければならない
・干潟に入ったことがないから干潟に入ってみたい
・ガタリンピックに出たい
・ムツゴロウとワラスボの刺身を食べたい
・東よか干潟にいる生き物をもっと大切にしてほしい
・干潟の生き物を見てみたい
・シチメンソウに興味を持ってもらうため、色が変わる時の 1 年の流れみたいなものがあればいい
・東よか干潟がラムサール条約に登録されたことはとてもすごい。しっかり地元の人達と守っていきたい。
・干潟の生き物の生態について詳しく知りたい
・干潟のことを勉強して自分達が知らない人に教える
・干潟はたくさんのゴミがあるので環境保全に積極的に取り組みたい
・干潟はどこまで続いているのか見てみたい
・東よか干潟はあまり知られていないので、ホームページやツイッターなどで公式のものをつくればよい
・干潟では漁業も行われているので、漁業のことも知りたい
・東よか干潟のことを勉強して発表する
・東よか干潟のことを CM（ムツゴロウなど）で宣伝する
・どういう所でムツゴロウやシオマネキが育っているか干潟に入って見てみたい
・干潮と満潮の差を見てみたい
・干潟のことをもっと知りたいし、大切にする人が増えると思うから、干潟について学校で学ぶ時間をつくってほしい。
・おもしろい生物がいっぱいいそうだから、干潟の生き物をもっと知りたい
・生き物について詳しく調べたい
・ムツゴロウとふれあいたい
・干潟で遊びたい
・東よか干潟を知らない小さな子ども達に、干潟の生き物は食べるとおいしいだけなんて思わせたくない。ムツゴロウなど干潟の生き物をもっと大切にすべき
・ムツゴロウの過ごし方が分からないので知れたらいい。
・泥がヌメヌメしている。これで“泥パック”みたいなものを作れば良いと思った。
・もっと干潟のことを知ってもらうためには、自分達が勉強していろんな人達に伝えていきたい。
・自分が住んでいる町だから東よか干潟や生き物のことをもっと勉強したい

・東よか干潟について知ることで干潟を大切にする人が増える
・東よか干潟があることで佐賀県にも観光客が増えたと思うから、まだまだイベントをしてほしい
・東よか干潟の魅力を全国のテレビで流して多くの人に知ってもらいたい
・干潟にどんな生物がいるか知りたい
・東与賀を有名にしたい
・東よか干潟がもっと有名になれば観光客が増え、干潟の大切さに気付ける
・シオマネキが食べれるかが知りたい
・ムツゴロウ取りができれば楽しそう
・あまり生き物のことを勉強しないので、たくさんの生き物のことについて勉強したい
・生き物やシチメンソウをきれいな場所で育ててあげたいので、干潟の掃除をやる
・野鳥の飛来のことについて簡単に学びたい
・干潟の中で遊びたい
・海岸堤防にパネルをもう 1 回付ける
・恋人の聖地にする
・行きやすくする
・生徒会でごみ拾いをする
・干潟に入って干潟の生き物とふれあいたい
・干潟のスマホゲームを出してほしい
・PR 動画を YouTubbe にあげる
・干潟の生き物に触りたい
・干潟にもっと生き物がいてほしい
・東よか干潟や生き物を大切にするため生き物ポスターを書く
・めずらしい野鳥がたくさんいるから、野鳥の観察をもっとしたい
・野鳥のことを詳しく知りたい
・干潟だけではなく佐賀のことをもっと PR した方がいい
・干潟の生き物のことについてもっと知れるようにしてほしい
・東よか干潟のよさについてもっと知っていきたい
・東よか干潟の大切さについてみんなに知ってほしい
・干潟の生物の食べ物を増やす
・干潟の広告を作ったらよい
・ごみが目立つので、清掃活動をもっとすべきだ
・ラムサール条約に登録されたのは水鳥にとって重要な湿地であったから、飛来する野鳥にどんな種類がいるのか知りたい。
・とても身近で良い所
・ムツゴロウを「食べれるの」と思っている人が多いので、おいしいメニューを考えてほ

しい
・東よか干潟をたくさんの人に知ってもらうため、イベントやポスターなどをつくる
・佐賀空港のビデオやムツゴロウの干物のような物はお土産として結構喜ばれると思うので、もっと大々的にやってもいいじゃないか
・近くにあるけど行く機会がない
・もっと干潟について知って知識を増やしたい
・より多くの渡り鳥が飛来する環境を整えてほしい
・よく走りに行くのでゴミなどを拾いきれいにしたい
・誇りに思いたい
・一度でいいから干潟に入って泥まみれになって生き物を探したい
・きれいな干潟になってほしい
・いろんな体験を増やしてほしい
・干潟に入ってここでしかできない体験をしたい
・2 か月に 1 回などのペースでイベントをやると干潟に来てくれるお客さんが増え PR にもなる
・干潟について学ぶことで大切さが分かる
・清掃のボランティア活動はすごくいい。きれいになって生き物や観光客にいいから。
・マスコットキャラクターを作る
・ちょっとくさい
・インターネット等でみるシチメンソウと違っていて県外から来た人達が残念そうにしていた。
・シチメンソウをきれいに保ってほしい
・干潟には佐賀の特産品などを買える店がないので売店を設けると良い。その商品の収入を干潟のために使えると良い
・きれいなシチメンソウに戻ってほしい
・干潟の泥は肌によいと聞いたので、その体験コーナーを作る
・干潟は夕日がきれい
・シチメンソウまつりをずっと続けてほしい
・干潟の土の中がどのようになっているか知りたい
・干潟周辺の施設などは、動物（野鳥等）に被害が出ないような環境づくりを意識してほしい
・ムツゴロウなどたくさんいる
・干潟は夕方になるととてもきれい
・地域のために何かしたいからもっと干潟について勉強したい